

武田 佐知子 編

編者の大阪大学退職を記念し、学縁に連なる31名が衣装・信仰・法と民俗・女性・文化の交錯をテーマに最新の研究成果を持ち寄る。

交錯する知 衣装・信仰・女性

▶ A5判・630頁／定価：本体 12,000円(税別) ISBN978-4-7842-1738-0 2014年3月刊行予定

〇〇予定内容目次〇〇

I 衣装

- 平安貴族における愛のかたちと衣服のかたち 武田佐知子
—『とりかえばや』の復権
青い鳥と紅いスカーフ 矢田尚子(盛岡大学准教授)
—杜甫「麗人行」の「青鳥飛去衛紅巾」をめぐる
唐代侍女男装雑考 菅谷文則(樫原考古学研究所所長)
『中国歴代帝后像』と南薫殿の図像 堤 一昭(大阪大学教授)
帛御服と御祭服についての諸問題 津田大輔(滝川中学校・高等学校教諭)
天平章についての臆説—「天平十二年八月日」に込められた意味 伊藤 純(大阪歴史博物館学芸員)
日本人のキリスト教受容と宣教師の装束 岡美穂子(東京大学史料編纂所助教)

II 信仰

- 菅原道真「能書」説の諸相とその展開—古代・中世を中心に 竹居男明(同志社大学教授)
聖徳太子の化身説—『三宝絵』と『四天王寺御手印縁起』 稲城正己(光蓮寺住職)
近世太子信仰の成立と天海 榊原小葉子(スタンフォード大学講師)
大阪天満宮の渡辺吉賢と「神酒笑姿」—平賀源内「神酒天神」の投影 高島幸次(大阪大学コミュニケーションデザインセンター招聘教授)
北斗七星と九曜星をともしう江戸時代の妙見画像の一例
—誤謬解釈を越えて 松浦 清(大阪工業大学准教授)
近世琉球における媽祖信仰と船方衆
—那覇若狭町村の新参林氏とその媽祖像を中心に 藤田明良(天理大学教授)
多重化するローカルな祭り—浮遊する聖人 井本恭子(大阪大学准教授)

III 古代史の諸相

- 難波長柄杓宮の造営過程 市 大樹(大阪大学准教授)
「政ノ要ハ軍事ナリ」—天武一三年閏四月丙戌詔再考 井上勝博(武庫川女子大学非常勤講師)
荒ぶる女神伝承成立の背景について 松下正和(近大姫路大学講師)

- 「風土記」開発伝承の再検討—『常陸国風土記』行方郡条 高橋明裕(立命館大学等非常勤講師)
播磨国風土記の民間神話からみた地域祭祀の諸相 坂江 渉(神戸大学地域連携センター研究員)

IV 女性

- 日本古代における婚姻とその連鎖をめぐる 今津勝紀(岡山大学教授)
近代日本における化粧研究家の誕生—藤波美蓉の事跡をめぐる 鈴木則子(奈良女子大学教授)
小栗風葉『青春』に見る男性領域への侵犯と女性教師の周縁化 小橋玲治(甲南高等学校非常勤講師)
タイ文学にみる女性の「解放」—『ワンヤヤーの愛』を中心として 平松秀樹(大阪大学等非常勤講師)
スペインの婦人参政権に関する一考察 岡本淳子(大阪大学助教)
土地の表象を纏う—「ご当地キティ」をめぐるジェンダー表象論 山崎明子(奈良女子大学准教授)

V 文化の交錯

- 絲綢を運んだ南海の船舶と文化 辻尾榮市(大阪府立大学客員研究員)
『浪花名所獨案内』を読む 辻尾千曉(大阪大学大学院博士前期課程修了)
一八世紀中葉の兵庫津方角会所と惣代の家
—岡方惣代善八の不正事件をめぐる 河野未央(近大姫路大学助教)
近世中後期に見る近代アルビニズム的思考 中井祥雅(大阪大学大学院博士後期課程)
近代における奄美群島からの渡台者について 高嶋朋子(東京外国語大学国際日本研究センター非常勤講師)
民俗世界における食の地域性と方言圏
—北陸地方の雑煮に注目して 中井精一(富山大学人文学部教授)
リンネの「帝国」と「使徒」の使命
—スウェーデンから見たテューンバリ訪日の背景 古谷大輔(大阪大学准教授)

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-751-1781 fax. 075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)			
冊数	冊	交錯する知		本体12,000円(税別) ISBN978-4-7842-1738-0			
お名前			tel				
			e-mail				
ご住所	〒						
送本方法	☐ 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) ☐ 代 引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)		本書HPのQRコード 書店番線印				

古代日本の衣服と交通

装う王権 つなぐ道

武田佐知子著

衣服と交通一、そしてそこから派生する境界・王権・民族標識・異性装などの諸問題……。これらは古代国家の形成、律令国家による国家統合等を考えるさいのキーワードとなる。2014年3月に大阪大学を退職する著者による長年の研究成果を集成。

【内容】古代における道と国家／古代における都と村／古代環日本海交通と淳足櫛／「魏志」倭人伝の衣服について／日本古代における民族と衣服／律令国家と蝦夷の衣服—民族標識としての衣服／男装の女王・卑弥呼／大化の冠位制について—吉士長丹像との関連で 他

▶A5判・410頁／本体6,800円(税別) ISBN978-4-7842-1723-6

着衣する身体と女性の周縁化

武田佐知子編

着衣という共通の素材を通して、さまざまな社会におけるジェンダーのあり方を考察。グローバルな視点から、衣服と身体の表象について解き明かす論文集。取り上げる素材は、「民族衣装」「魔女」「リカちゃん人形」「マイケル・ジャクソン」等、多岐にわたる一書。



▶A5判・500頁／本体5,800円(税別)

ISBN978-4-7842-1616-1

正倉院染織品の研究

尾形充彦著

宮内庁正倉院事務所で研究職技官として、一貫して染織品の整理・調査・研究に従事してきた著者による、35年にわたる研究成果。正倉院事務所が行った第1次・第2次の古契調査(昭和28～47年)や、C. I. E. T. A. (国際古代染織学会)の古代織物調査方法に大きな影響を受けて、身につけた調査研究方法により進めてきた正倉院染織品研究の集大成。

【内容】聖武天皇の時代の正倉院の染織品／正倉院の染織／正倉院製の研究／花唐草獅子文様について／正倉院の染織品の保存と技術 他

▶B5判・416頁／本体20,000円(税別) ISBN978-4-7842-1707-6

歴史における周縁と共生

—女性・穢れ・衛生—

鈴木則子編

日本の歴史のなかで女性の周縁化(地位の劣化)が進行していく過程を、その身体に対する認識の歴史的变化に着目しつつ、宗教／儀礼／穢れ／医学／衛生という、主として五つの側面から検討をくわえ、明らかにする。仏教と神道等の諸宗教における女性認識の諸相、血穢などに対する地域社会の対応の展開、伝統的医学・近代医学双方からみた病氣や女性身体観の変容、近代衛生思想における女性役割の位置づけ等について、新しい視点から提示した共同研究の成果。

▶A5判・368頁／本体6,800円(税別)

ISBN978-4-7842-1714-4

太子信仰と天神信仰 信仰と表現の位相

武田佐知子編

時代を超えて、上下を通じた諸階層の篤い崇敬を得てきた、聖徳太子信仰・天神信仰の比較研究。両信仰に関わる美術史、文学史、宗教史、芸能史的研究を集成し、時代のニーズとともに変化する信仰の形態や、それに付随するイメージの付与、そして宗派や地域を越えて多面的に利用されるそれぞれの信仰の進化形について明かす。

▶A5判・354頁／本体6,500円(税別) ISBN978-4-7842-1473-0

周縁文化と身分制

脇田晴子・マーチン・コルカット・平雅行編

周縁部分をテーマとすることによって、新たな前近代社会像を多面的に浮き彫りにする12篇。各時代に存在する差別の構造的性質を明らかにすることは、その時代の社会全体のあり方を解明することに連なる、との観点から、方法を異にする日米の気鋭の研究者の討論を踏まえた成果。

▶A5判・350頁／本体5,500円(税別) ISBN4-7842-1231-0

京都の女性史

京都橘女子大学女性歴史文化研究所編

平安時代から近代まで、京都に生きた女性に視点を据えた論文8本を収める。同研究所に所蔵されている『遊客名簿』の分析を通してこれまであまり取り上げられてこなかった近代京都の遊郭について明らかにした論文など、最新の研究成果が盛りこまれている。

▶A5判・242頁／本体2,400円(税別) ISBN4-7842-1123-3

散所・声聞師・舞々の研究

世界人権問題研究センター編

散所の人々が携わった芸能あるいは陰陽道などのかかわりを含めて、文献・絵画・地図の綿密な分析をこころみ、洛中・山城国・近江国における実態を浮きぼりにする。共同研究のまとめとしての座談会のほか、研究ツールとしての年表・文献目録・基本史料を収録、古代・中世社会の研究にとって欠くことのできない基本文献。

▶A5判・590頁／本体8,200円(税別) ISBN4-7842-1219-1

※壬生狂言古衣裳

松浦俊海監修／野上俊子他編

重要無形民俗文化財「壬生狂言」の衣裳のほとんどは、庶民が身近な死者の菩提を弔うために、その生前の衣裳を奉納したもので、奉納年や没年が墨書されている。制作年代を知ることがむずかしい染色資料にあって墨書年から制作年の下限を推定できるこれらの衣裳は、きわめて貴重な存在である。カラー図版114頁・モノクロ図版32頁。

▶A4判・300頁／本体58,000円(税別) ISBN4-7842-0721-X

中世京都文化の周縁

川嶋将生著

思文閣史学叢書

「近世都市」へと変貌を遂げていく中世京都の姿を、洛中洛外図や祇園会の記録を通し、また声聞師・庭者など室町文化を支えた都市周縁の非人たちの動向と合わせて論じ、上層町衆と新興町人との世代交代という、中世から近世への明らかな時代転換が見られる寛永文化に目を注ぐ。

▶A5判・430頁／本体7,800円(税別)

ISBN4-7842-0717-1

京都文化の伝播と地域社会

源城政好著

思文閣史学叢書

京都とその近郊の中世文化史に取り組んできた著者が、これまでの成果をまとめた一書。在地(荘園)をめぐる動向、公武の文芸交流と伝播、さらに河原者・声聞師の被差別民衆の諸相と室町・戦国期の人物論を収めた。

▶A5判・400頁／本体7,800円(税別)

ISBN4-7842-1325-2

日本中世の社会と寺社

細川涼一著

律宗・律僧が中世社会で果たした役割を中心に、女性や被差別民など、歴史の主流からこぼれ落ちがちなものたちへ常にまなざしを注ぎ、境界領域から歴史を問い続けてきた著者の主要な研究成果を一書にまとめる。

▶A5判・452頁／本体7,700円(税別)

ISBN978-4-7842-1670-3

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。